

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回吉川市図書館協議会
開催日時	令和4年8月4日(木) 午前・午後 10時00分 から 11時30分 まで
開催場所	吉川市役所 303・304会議室
出席委員(者)氏名	小林央士・坂田洋美・木村嘉男・佐々木絹子・若林元城・野上文子(敬称略)
欠席委員(者)氏名	岡田三津子・大見山琢生・嶋田曜子(敬称略)
担当課職員職氏名	生涯学習課 岩上課長、山崎主査、岡庭主任 市立図書館 竹林館長、森田チーフ
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 副会長の選出について (2) 令和3年度事業報告について (3) 吉川市図書館を使った調べる学習コンクールについて 5 その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各図書館・図書室 図書除菌機について 6 閉会 <p style="text-align: right;">【全て公開】</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第1回吉川市図書館協議会次第 ・令和3年度事業報告書【資料1】 ・吉川市図書館を使った調べる学習コンクール【資料2】 ・各図書館・図書室 図書除菌機【資料3】
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	佐々木絹子・野上文子(敬称略)
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局	1 開会
木村会長	2 あいさつ(木村会長)
	3 自己紹介 各委員及び事務局自己紹介。 会議録署名委員について、佐々木委員、野上委員を指名した。
	4 議事 (1) 副会長の選出について
木村会長 事務局	・事務局より説明をお願いします。 ・小林智樹副会長が昨年度末で退任したため、現在副会長の座が空席となっています。会議の進行にあたり、委員の皆さまの中からどなたか副会長をお務めいただきたいと思います。
木村会長	・それでは、どなたか副会長に立候補、または推薦したい方はいますか。 -立候補・推薦者なし-
木村会長 事務局 木村会長	・立候補・推薦者なしのため、事務局案を提示してください。 ・小林央士委員を推薦します。 ・ただいま、事務局から小林委員の推薦がありましたが、皆さま異論はないでしょうか。 -出席全委員承認-
木村会長	・それでは、小林委員よろしくお願いいたします。
	(2) 令和3年度事業報告について
木村会長 事務局 木村会長 木村会長 事務局	・事務局より説明をお願いします。 ＜資料1に基づき説明＞ ・それでは質問、意見などがございましたらお願いします。 ・令和3年度の新事業である「思い出サロン」、「渋沢栄一人生ゲーム大会」について、今一度詳しくお聞かせください。 ・「思い出サロン」は、昔を思い出して好きなことを語り合うといった回想法と、認知症予防の体操を併せた、シルバー世代をターゲットにした事業です。「昭和の映画編」、「昭和のプロレス編」の2回実施し、それぞれ参加者は少なかつたものの、大いに盛り上がりを見せました。なお、今年度についても「昭和のお笑い編」や、老人福祉センターぱれっとでの「出張思い出サロン」

<p>野上委員 事務局</p>	<p>も実施しており、好評を博しております。続いて「渋沢栄一人生ゲーム大会」ですが、渋沢栄一オリジナルの人生ゲームが埼玉県から各市町村へ配布されたことから、それを市立図書館がお借りして、多くの子どもたちに触れてもらおうと思い、感染対策を講じながら事業を実施いたしました。ゲーム上のマスには渋沢栄一の偉業が記載されており、子どもたちは勉強しながらゲームを楽しむことができました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料11頁にある「クリスマスえいごお楽しみ会」という事業はどのようなものですか。また、実施頻度はどのくらいですか。
<p>野上委員 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> こちらは視聴覚ライブラリー図書室で毎年実施をしていると聞いています。図書スタッフの知り合いに英語に長けた方がおり、講師をお願いしています。 市立図書館では実施しないのですか。 検討します。実施する運びとなった際には、講師としてよろしくお願ひします。
<p>野上委員 小林副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ご検討よろしくお願ひします。 いつも図書配送サービスでお世話になっております。絵本というのは子どもの心を潤してくれるものだと思っています。ところが、昨今において、某オンラインゲームが子どもたちやその保護者の中で流行っており、学校だよりやホームページ等で「本に親しみましょう。」と発信してはいるのですが、なかなかその流れを押しとどめるのが難しい現状にあります。学校等で、夏休み明けに新型コロナウイルス感染者数が増えるという報道がよくありますが、実際には学校での集団感染の発生率は非常に低い数値です。同様に、図書室、図書館での集団感染というのは非常に起こりにくいものだというのが個人的な考えです。そういった中でも、市立図書館では感染対策を講じつつ、様々な事業を実施し、市民や子どもたちに本に親しんでもらうよう努めていることは大変素晴らしいことだと思います。
<p>木村会長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 臨時休館や感染対策の基準はあるのですか。 市で、新型コロナウイルスにおける公共施設の対応を随時定めており、図書館の運営においても同様の対応をしています。また、感染予防対策については、日本図書館協会が出している「図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を参考にしています。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 貸館業務を行っている公共施設の利用が全て中止になってしまった時期がありまして、図書館についても同様に臨時休館としました。また、臨時休館の時期は、近隣の図書館も同様に休館の対応をしており、仮に吉川市だけ開館をするとなると、近隣の図書館利用者が一斉に吉川市に押し寄せる可能性があり、市民の方の安全確保の面から、足並みを揃えて休館といたしました。
<p>小林副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 公共サービスは民間に先立って気を付けないといけないという理屈はわかりませんが、図書館のような静かな場所での集団感染は起こりにくいのに、それでも感染対策をしっかりと実施するというのは、世の中の厳しさを感じます。ところで、私は布絵本というものを今まで見聞きしたことがないのですが、これは

坂田委員	<p>どのようなものですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木綿の布にフェルト生地を縫い込んだ絵本です。図書館の中に作り方の見本があるため、それを参考にしたり、自分たちでも考えて製作しています。以前は年間4冊製作していた頃もありますが、サークル内の人員の高齢化や、専ら作業の大半は修理ばかりで、今は年間1冊製作するのがやっとです。現物を図書館で見ただけであればと思います。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・拝見させていただきます。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児に読ませるために保護者の方が借りていくことが多いのですが、口に含んだりしてしまうので、コロナ禍においては扱いが難しいと感じています。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・布絵本については、返却があった際は、消毒後、1週間寝かせてから貸出コーナーへ戻しています。なお、現在市内で155点所蔵があります。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・よく修理する絵本というのは、それだけ読まれているものなので、修理はかせません。ただ、修理といっても、基本的には一からの作り直しのため、大変な作業です。新たなサークルの人員を募集しても、製作したものが自分のものにならないということもあり、人員集めにも苦労しています。
若林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・普通に人員募集するのではなく、手先を使うことで脳への刺激になるといった、別の切り口で人員を募集してみても良いと思います。
小林副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今の子どもたちは、手先を使う機会が減ってきているせいか、はさみや彫刻刀の使い方が不器用だと感じています。手先を使って製作する布絵本の素晴らしさを子どもたちに伝えることには意義があると思います。
若林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園においても、配本サービスやおはなし会等、いつも図書館には大変お世話になっております。先ほど小林委員から、学校における集団感染は起こりにくいという話がありましたが、幼稚園においても同様で、実際クラスターはほとんど発生していません。なおのこと、基本的に静かな図書館において、クラスターが発生するというのは滅多にないことだと思います。資料の中で、入館者数は減っているが、貸出冊数は平常時並みに戻ってきているというデータがありますが、それはつまり、コロナの影響で図書館に行くのをためらう方がいるということかもしれません。せっかく様々な事業を実施していただいているのに、参加人数が寂しいものも多いため、もう少し動員できる環境づくりを工夫していく必要があると思います。
佐々木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・2週間に1回、中央公民館図書室に行って本を貸し借りすることが私の習慣となっています。行くたびに図書室のスタッフのサービスの良さを感じ、気持ちよく図書室から帰ってきます。地域の方にたくさん本を読んでほしいという気持ちが伝わってきます。引越し等で、様々な図書館を利用してきましたが、吉川市の図書館のサービスは、その中でも群を抜いていると思います。引き続きサービスの維持に努めていただきたいと思います。
野上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「英語おはなし会」の実施時間帯ですが、今は平日の11時から実施しています。11時からだと、幼稚園児や小学生も来ることができず、乳幼児しか来ることができない時間帯のため、ぜひ実施時間の見直しをご検討ください。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討します。
木村会長 事務局 木村会長 小林副会長	<p>(3) 吉川市図書館を使った調べる学習コンクールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明をお願いします。 ＜資料3に基づき説明＞ ・それでは質問、意見などがございましたらお願いします。 ・今の子どもたちは「何かを調べる」ことについては、インターネットを利用することが非常に多いです。しかしながら、小学校においていえば、インターネットよりも図書資料を使って調べたものの方が、圧倒的に良質なものになる傾向にあります。インターネットに掲載されているものは、商業的な内容であったり、子どもたちにとっては漢字が読めないものが多いのですが、図書資料に関しては、対象年齢に応じ、内容が丁寧に作られているため、調べものの資料には適しています。このような観点からも、コンクールを開催する意義は大きいと思います。提案として、今後チラシ等を作成するうえで、もっと本で調べることのメリットや素晴らしさを載せていただけたらと思います。
佐々木委員 小林副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この「調べる学習コンクール」に対し、学校での指導内容を教えてください。 ・このコンクールは自由応募のため、具体的な指導はしていませんが、通常子どもたちには、国語、生活科もしくは総合的な学習等で「調べ方」を学ばせています。そこで学んだ素地を活かして、このような作品募集に対しての挑戦に繋がっていると思います。
佐々木委員 小林副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導での学力の形成が、このようなコンクールに生きてくるということは良いことだと思います。 ・学校で学んだことを家庭生活で活かすかどうかは、家庭環境に起因するという傾向があり、コンクールへの応募については、家庭での協力も大きな要素となりうると思います。
野上委員 小林副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・こういったコンクールに出品すると、内申書等により、中学校受験が優位に立つことはありますか。 ・全くありません。
野上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクールのチラシですが、過去の入賞作品のタイトルを一部載せるのはどうでしょうか。タイトルが記載されていれば、子どもたちにとって、どのような作品が応募されているかイメージが掴めるので、作品の応募増に繋がると思います。
事務局 若林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・検討します。 ・大人も活字離れが進み、スマホ等で調べることが増えてきている時代のため、あくまで「図書館の本」を使って調べることの主張がもっとあると良いと思います。また、学校によって応募総数に差があるのですが、三輪野江小学校が美南小学校の応募総数を上回っているため、各学校のコンクールへの取り組み方が違うことが資料から読み取れます。
小林副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取り組み方については、総合的な学習においてクラス単位で取り組んで

	<p>いる学校もあれば、子どもの自由意志に任せる学校もあると思いますので、一律に比べられないものだと思います。確かに、多く出品すると、質を伴う作品も出てくる傾向にありますが、少ない応募総数でも、自分の意志できちんと調べ上げてきた良質な作品もありますので、応募総数によって学校のコンクールに対する姿勢が決められるわけではないと思います。</p>
若林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・調べものに対し、スマホを使用し、ウィキペディア等で調べて完結してしまうのもどうかと思います。
小林副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホを持っているだけで学力が低下する傾向にあるという研究データもあります。一方で、本というのは、著者の想いが伝わってくるよう丁寧に作られています。また、子どもたちに本の良さを伝えるためにも、大人が子どもたちに「本を読みなさい」と言うのではなく、「面白いから一緒に読もう」と言えるような、大人の姿勢も大事だと思っています。
若林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育を推奨する動きがありますが、アナログの良さというのも忘れてはならないと思います。絵本のように視覚的に見ることで想像力を膨らませるようなものは、デジタル化に向かないのではないのでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・出版業界の中では、電子書籍を導入しているところも増えてきましたが、絵本や児童書についてのデジタル化は未だ多くはありません。絵本や児童書は、本の大きさや質感などの規格も含めた作品であるため、一概にデジタル化するというのは不向きのようなのです。
木村会長	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の製作に携わったことがあります。乳幼児が絵本を噛んでしまうことを想定し、一般的に絵本の角は丸く作られています。電子書籍においてはそういった配慮もできないため、乳幼児も困ってしまうかと思っています。
事務局	<p>5 その他</p> <p>(1) 各図書館・図書室 図書除菌機について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館と視聴覚ライブラリーについては、すでに図書除菌機を設置していましたが、利用者の方からの要望もあり、資料のとおり、令和4年3月17日に、旭地区センター図書室、および中央公民館図書室に設置しました。これを持ちまして、市内全ての図書館（室）に図書除菌機の設置が完了しました。
小林副会長	<p>6 閉会</p> <p>副会長あいさつ</p> <p style="text-align: right;">終了（11時30分）</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和4年9月10日</p> <p>署名委員 佐々木 絹子（自署） 署名委員 野上 文子（自署）</p>	